



Lightweight アクセス ポイントのための DHCP オプション 43 の設定

この付録では、Cisco Catalyst 3750 シリーズ スイッチなどの Windows 2003 Enterprise DHCP サーバで DHCP オプション 43 を設定する手順について説明します。DHCP オプション 43 は、Cisco Aironet Lightweight アクセス ポイントで使用します。この付録の内容は、次のとおりです。

- [概要 \(P. G-2\)](#)
- [1000 シリーズ アクセス ポイントへの オプション 43 の設定 \(P. G-3\)](#)
- [1100、1130、1200、1240、および 1300 シリーズ Lightweight アクセス ポイント用のオプション 43 の設定 \(P. G-4\)](#)

概要

ここでは、Windows 2003 Enterprise DHCP サーバを Cisco Aironet Lightweight アクセス ポイントと共に使用できるようにするための DHCP オプション 43 の設定例を示します。他の DHCP サーバの実装の場合は、DHCP サーバの製品マニュアルを参照して、DHCP オプション 43 を設定します。オプション 43 では、コントローラの管理インターフェイスの IP アドレスを使用する必要があります。



(注)

DHCP オプション 43 は、DHCP プールごとに 1 つのアクセス ポイント タイプに制限されています。各アクセス ポイントのタイプに応じて個別の DHCP プールを設定する必要があります。

Cisco Aironet 1000 および 1500 シリーズ アクセス ポイントは、DHCP オプション 43 にカンマ区切りの文字列形式を使用します。他の Cisco Aironet アクセス ポイントは、DHCP オプション 43 に Type-Length-Value (TLV) を使用します。DHCP サーバは、アクセス ポイントの DHCP Vendor Class Identifier (VCI; ベンダー クラス ID) 文字列に基づいてオプションを返すようにプログラムされています (DHCP オプション 60)。表 G-1 は、Lightweight モードで動作可能な Cisco アクセス ポイントの VCI 文字列を示しています。

表 G-1 Lightweight アクセス ポイントの VCI 文字列

アクセス ポイント	Vendor Class Identifier (VCI)
Cisco Aironet 1000 シリーズ	Airespace.AP1200
Cisco Aironet 1100 シリーズ	Cisco AP c1100
Cisco Aironet 1130 シリーズ	Cisco AP c1130
Cisco Aironet 1200 シリーズ	Cisco AP c1200
Cisco Aironet 1240 シリーズ	Cisco AP c1240
Cisco Aironet 1300 シリーズ	Cisco AP c1300
Cisco Aironet 1500 シリーズ	Cisco AP.LAP1510

1100、1130、1200、1240、および 1300 シリーズ アクセス ポイントの TLV ブロックの形式は次のとおりです。

- タイプ : 0xf1 (10 進数 241)
- 長さ : コントローラ IP アドレスの数 × 4
- 値 : WLC 管理インターフェイスのリスト

1000 シリーズ アクセス ポイントへの オプション 43 の設定

組み込みの Cisco IOS DHCP サーバを使用して、Cisco 1000 シリーズ Lightweight アクセス ポイント用に DHCP オプション 43 を設定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 Cisco IOS Command Line Interface (CLI; コマンドライン) で設定モードに切り替えます。

ステップ 2 デフォルトのルータ、ネーム サーバなどの必要なパラメータを含む DHCP プールを作成します。DHCP スコープの例は、次のとおりです。

```
ip dhcp pool <プール名>  
network <IP ネットワーク> <ネットマスク>  
default-router <デフォルトのルータ>  
dns-server <DNS サーバ>
```

<プール名> は、DHCP プールの名前です (例: AP1000)。
<IP ネットワーク> は、コントローラが配置されているネットワークの IP アドレスです (例: 10.0.15.1)。
<ネットマスク> は、サブネット マスクです (例: 255.255.255.0)。
<デフォルトのルータ> は、デフォルトのルータの IP アドレスです (例: 10.0.0.1)。
<DNS サーバ> は、DNS サーバの IP アドレスです (例: 10.0.10.2)。

ステップ 3 次の構文を使用してオプション 60 の行を追加します。

```
option 60 ascii "Airespace.AP1200"
```

引用符 (“) を忘れないようにしてください。

ステップ 4 次の構文を使用してオプション 43 の行を追加します。

```
option 43 ascii Oカンマ区切りの IP アドレスのリスト O
```

たとえば、コントローラ IP アドレス 10.126.126.2 および 10.127.127.2 を使用して Cisco 1000 シリーズ アクセス ポイント用にオプション 43 を設定している場合は、Cisco IOS CLI で DHCP プールに次の行を追加します。

```
option 43 ascii "10.126.126.2,10.127.127.2"
```

引用符 (“) を忘れないようにしてください。

1100、1130、1200、1240、および 1300 シリーズ Lightweight アクセス ポイント用のオプション 43 の設定

組み込み Cisco IOS DHCP サーバで、Cisco Aironet 1100、1130、1200、1240、および 1300 シリーズ Lightweight アクセス ポイント用に DHCP オプション 43 を設定する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 Cisco IOS CLI で、設定モードに切り替えます。

ステップ 2 デフォルトのルータ、ネーム サーバなどの必要なパラメータを含む DHCP プールを作成します。DHCP スコープの例は、次のとおりです。

```
ip dhcp pool <プール名>
network <IP ネットワーク> <ネットマスク>
default-router <デフォルトのルータ>
dns-server <DNS サーバ>
```

<プール名> は、DHCP プールの名前です (例: AP1240)。
 <IP ネットワーク> は、コントローラが配置されているネットワークの IP アドレスです (例: 10.0.15.1)。
 <ネットマスク> は、サブネット マスクです (例: 255.255.255.0)。
 <デフォルトのルータ> は、デフォルトのルータの IP アドレスです (例: 10.0.0.1)。
 <DNS サーバ> は、DNS サーバの IP アドレスです (例: 10.0.10.2)。

ステップ 3 次の構文を使用してオプション 60 の行を追加します。

```
option 60 ascii OVC1 文字列 O
```

<VCI 文字列> には、表 G-1 の値を使用します。引用符 (O) を忘れないようにしてください。

ステップ 4 次の構文を使用してオプション 43 の行を追加します。

```
option 43 hex <16 進数文字列>
```

16 進数文字列は、下に示すように TLV 値を連結することによって作成されたものです。

タイプ+長さ+値

タイプは、常に *f1* (16 進数) です。長さは、コントローラ管理 IP アドレスの数×4 を 16 進数で表したものです。値は、一覧表示されるコントローラの IP アドレスを順番に 16 進数で表したものです。

たとえば、管理インターフェイス IP アドレスが 10.126.126.2 および 10.127.127.2 の 2 つのコントローラがあるとします。タイプは、常に *f1* (16 進数) です。長さは、 $2 \times 4 = 8 = 08$ (16 進数) です。IP アドレスは、*0a7e7e02* および *0a7f7f02* に変換されます。これらで文字列を作成すると、*f1080a7e7e020a7f7f02* となります。DHCP スコープに追加された結果の Cisco IOS コマンドは、次のとおりです。

```
option 43 hex f1080a7e7e020a7f7f02
```